

授業概要

そもそもイギリス人の祖先である北ドイツの小部族、アングロ・サクソン人の言葉であった英語は、ヴァイキング、フランス人等の他民族の侵略によって言語の姿を変えていった。特に、1066年、フランスの一地方の領主による英国の武力制圧によって、その後およそ300年間英国の言葉がフランス語になったために、大量のフランス語が英語に入ったことは、英語に甚大な影響をもたらした。本講義では、このような数々の外圧に影響を受けて、徐々に現在の形に変化していった英語の歴史的過程を講義する。

英語を過去から歴史的に考察すれば、MacDonald という綴り字にはなぜ大文字がふたつあるのか、英単語の綴り字はなぜ不規則なのか、child の複数形 children には、通常名詞の複数形に見られる s（例えば books）がなぜついていないのかといった謎を解き明かすことができると同時に、国際語となった英語の今の姿をさらに深く理解することもできよう。

授業計画

第 1 回	イントロダクション：授業の概要、成績の評価方法などの説明
第 2 回	本来語と借用語：三層をなす同意語、英語の非民主的な性格
第 3 回	英語は起源：英語はどこから来たのか
第 4 回	ケルト人、ローマ人の侵略
第 5 回	ケルト人、ローマ人の言語の英語への影響
第 6 回	アングロ・サクソン人の侵略と彼らの文明
第 7 回	古英語期：古英語の特徴(1)名詞と動詞の屈折を中心に
第 8 回	古英語期：古英語の特徴(2)語順と語彙
第 9 回	古英語期：ヴァイキングの侵略と彼らの言語への影響(1)歴史的背景、北欧語系借用語
第 10 回	古英語期：ヴァイキングの侵略と彼らの言語への影響(2)北欧語系借用語と本来語
第 11 回	中英語期：ノルマン・コンクエストから英語の公的復活まで
第 12 回	中英語期：中英語の特徴
第 13 回	近代英語期：標準語の成立と大母音推移（初期近代英語期の長母音に生じた音韻変化）
第 14 回	近代英語期：ルネサンスと宗教改革から生じた言語に対する相対する考えとその言語への影響
第 15 回	近代英語期：規範文法の誕生（現在の英文法がいかに確立していったか）
第 16 回	定期試験（筆記試験）

到達目標

歴史を通して英語の特徴を把握するとともに、それを通して現在の英語について、さらにアングロ・サクソン人を中心とした英語圏の人々の考え方について学ぶ。英語の教員免許課程の科目を履修する者は、これによって中学校及び高等学校における外国語（英語）の授業に資する（特に歴史的な観点からの）英語学的知見を身につける。

履修上の注意

この講義の目的は英語の読み書きではなく、ある言語の歴史を学ぶことにあるため、当然ながら英語が苦手な方も受講できる。言葉に興味がある方ならば受講を歓迎する。テキスト、プリント等は日本語で書かれたものを使用する。

予習・復習

配布するプリントには單元ごとに理解度をはかるチェック・ポイントを載せている。これを参考に毎回授業前、授業後にテキストを読んで理解していただきたい。新しい概念、専門用語がよく出てくるため、それらを理解し、吸収するために予習・復習は毎回行うこと。

評価方法

課題（30%）、定期試験（70%）で評価する。定期試験の問題は、授業中に受講者に配布するプリントにあらかじめ提示した問題の中から出題する。詳細については初回の授業で説明する。

テキスト

- ・教科書名：『英語の歴史』（スタンダード英語講座 3）
- ・著者名：渡部昇一
- ・出版社名：大修館書店
- ・出版年（ISBN）：1983年（978-4-469-14183-2）